

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.4.5-11

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1:1 さて、ヤコブといっしょに、それぞれ自分の家族を連れて、エジプトへ行ったイスラエルの子たちの名は次のとおりである。

1:2 ルベン、シメオン、レビ、ユダ。

1:3 イッサカル、ゼブルンと、ベニヤミン。

1:4 ダンとナフタリ。ガドとアシェル。

1:5 ヤコブから生まれた者の総数は七十人であった。ヨセフはすでにエジプトにいた。

1:6 そしてヨセフもその兄弟たちも、またその時代の人々もみな死んだ。

1:7 イスラエル人は多産だったので、おびただしくふえ、すこぶる強くなり、その地は彼らで満ちた。

1:8 さて、ヨセフのことを知らない新しい王がエジプトに起こった。

1:9 彼は民に言った。「見よ。イスラエルの民は、われわれよりも多く、また強い。

1:10 さあ、彼らを賢く取り扱おう。彼らが多くなり、いざ戦いというときに、敵側についてわれわれと戦い、この地から出て行くといけないから。」

1:11 そこで、彼らを苦役で苦しめるために、彼らの上に労務の係長を置き、パロのために倉庫の町ピトムとラメセスを建てた。

1:12 しかし苦しめれば苦しめるほど、この民はますますふえ広がったので、人々はイスラエル人を恐れた。

1:13 それでエジプトはイスラエル人に過酷な労働を課し、

1:14 粘土やれんがの激しい労働や、畑のあらゆる労働など、すべて、彼らに課する過酷な労働で、彼らの生活を苦しめた。

エジプトの地に定住しました。その部族がほぼそのままイスラエルの部族となったのです。そして律法が与えられ、約束の地であるカナンに定住し、イエス様の十字架の雛形である祭儀が与えられました。それらは全て永遠のいのちと人類の救いのためです。

このように神様に用いられたイスラエル民族でしたので、主は彼らを大いに祝福してくださいました。このように神様のご計画に歩む者は祝福されるのです。イスラエルが「おびただしくふえ、すこぶる強く」なったように、私たちも主に祝福されるように、そのご計画を担って歩みましょう。

「新しい王」はイスラエルの民であるヨセフから受けた恩を知らずに、その子孫であるイスラエルを苦しめました。それは彼らをイスラエルから脱出させる神様の大きい目的もあったのです。

全ての苦しみに神様のすばらしい目的があることを知りましょう。またそのように歴史を動かして救いを成就してくださった神様のみわざに信頼し、その権威にひれ伏して祝福を得ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 6日 火曜

出エジプト

1:15 また、エジプトの王は、ヘブル人の助産婦たちに言った。そのひとりの名はシフラ、もうひとりの名はプアであった。

1:16 彼は言った。「ヘブル人の女に分娩させるとき、産み台の上を見て、もしも男の子なら、それを殺さなければならない。女の子なら、生かしておくのだ。」

1:17 しかし、助産婦たちは神を恐れ、エジプトの王が命じたとおりにせず、男の子を生かしておいた。

1:18 そこで、エジプトの王はその助産婦たちを呼び寄せて言った。「なぜこのようなことをして、男の子を生かしておいたのか。」

1:19 助産婦たちはパロに答えた。「ヘブル人の女はエジプト人の女と違って活力があるので、助産婦が行く前に産んでしまうのです。」

1:20 神はこの助産婦たちによくしてくださった。それで、イスラエルの民はふえ、非常に強くなった。

1:21 助産婦たちは神を恐れたので、神は彼女たちの家を栄えさせた。

1:22 また、パロは自分のすべての民に命じて言った。「生まれた男の子はみな、ナイルに投げ込まなければならない。女の子はみな、生かしておかなければならない。」

助産婦たちはエジプト人でありましたが、神様の形を持つ人間でした。彼女たちの良心に主が働いてくださったのです。全ての人に良心を与えられて神様をあがめつつ、そのみわざに感謝しましょう。

彼女たちがイスラエル人によくしたのは、イスラエル人の信仰にもるものだったでしょう。イスラエル人が神をあがめることを知っていましたし、その信仰ゆえに比較的誠実であったと思われる。私た



ちも世の人々から慕われるような生き方をしましょう。

このような苦難がイスラエル人に及びましたが、それは後にモーセが現れて、主の働きをするためでした。どんな苦難も主のみこころがあり、もっと大きな問題の解決と幸いのためです。主に信頼して待ち望みましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 水曜

出エジプト



2:1 さて、レビの家のひとりの人がレビ人の娘をめぐらした。

2:2 女はみごもって、男の子を産んだが、そのかわいいのを見て、三か月の間その子を隠しておいた。

2:3 しかしもう隠しきれなくなったので、パピルス製のかごを手に入れ、それに瀝青と樹脂とを塗って、その子を中に入れ、ナイルの岸の葦の茂みの中に置いた。

2:4 その子の姉が、その子がどうなるかを知ろうとして、遠く離れて立っていたとき、

2:5 パロの娘が水浴びをしようとナイルに降りて来た。彼女の侍女たちはナイルの川辺を歩いていた。彼女は葦の茂みにかごがあるのを見、はしためをやって、それを取って来させた。

2:6 それをあけると、子どもがいた。なんと、それは男の子で、泣いていた。彼女はその子をあわれに思い、「これはきっとヘブル人の子どもです。」と言った。

2:7 そのとき、その子の姉がパロの娘に言った。「あなたに代わって、その子に乳を飲ませるため、私が行って、ヘブル女のうばを呼んでまいりましょうか。」

2:8 パロの娘が「そうしておくれ。」と言ったので、おとめは行って、その子の母を呼んで来た。

2:9 パロの娘は彼女に言った。「この子を連れて行き、私に代わって乳を飲ませて下さい。私があなたの賃金を払いましょう。」それで、その女はその子を引取って、乳を飲ませた。

2:10 その子が大きくなったとき、女はその子

をパロの娘のもとに連れて行った。その子は王女の息子になった。彼女はその子をモーセと名づけた。彼女は、「水の中から、私がこの子を引き出したのです。」と言ったからである。

幼子の両親は、わが子をナイル川で殺すことはできず、せめてかごに浮かべておきました。どうなるかは分かりませんでした。神様にゆだねたのです。それは主のみこころにかなったことでした。私たちも先行きが分からないことが多いですが、できるだけのことをして、後は主に委ねてみましょう。

この幼子はモーセの名づけられ、後にイスラエル人を救う指導者となりました。彼は自分を殺そうとするエジプト王の権威のもとに成長したのです。これはサタンの方策を逆手に取ってすばらしいみわざを起こされる主の摂理によります。主を信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 木曜

出エジプト

2:11 こうして日がたち、モーセがおとなになったとき、彼は同胞のところへ出て行き、その苦役を見た。そのとき、自分の同胞であるひとりのヘブル人を、あるエジプト人が打っているのを見た。

2:12 あたりを見回し、ほかにだれもいないのを見届けると、彼はそのエジプト人を打ち殺し、これを砂の中に隠した。

2:13 次の日、また外に出てみると、なんと、ふたりのヘブル人が争っているではないか。そこで彼は悪いほうに「なぜ自分の仲間を打つのか。」と言った。

2:14 するとその男は、「だれがあなたを私たちのつかさやさばきつかさにしたのか。あなたはエジプト人を殺したように、私も殺そうと言うのか。」と言った。そこでモーセは恐れて、きっとあのことが知れたのだと思った。

2:15 パロはこのことを聞いて、モーセを殺そうと捜し求めた。しかし、モーセはパロのところからのがれ、ミデヤンの地に住んだ。彼は井戸のかたわらにすわっていた。

2:16 ミデヤンの祭司に七人の娘がいた。彼女たちが父の羊の群れに水を飲ませるために来て、水を汲み、水ぶねに満たしていたとき、

2:17 羊飼いたちが来て、彼女たちを追い払った。すると、モーセは立ち上がり、彼女たちを救い、その羊の群れに水を飲ませた。

2:18 彼女たちが父レウエルのところに帰ったとき、父は言った。「どうしてきょうはこんなに早く帰って来たのか。」

2:19 彼女たちは答えた。「ひとりのエジプト人が私たちを羊飼いたちの手から救い出してくれました。そのうえその人は、私たちのた



めに水まで汲み、羊の群れに飲ませてくれました。」

2:20 父は娘たちに言った。「その人はどこにいるのか。どうしてその人を置いて来てしまったのか。食事をあげるためにその人を呼んで来なさい。」

2:21 モーセは、思い切ってこの人といっしょに住むようにした。そこでその人は娘のチツボラをモーセに与えた。

2:22 彼女は男の子を産んだ。彼はその子をゲルシヨムと名づけた。「私は外国にいる寄留者だ。」と言ったからである。

2:23 それから何年もたって、エジプトの王は死んだ。イスラエル人は労役にうめき、わめいた。彼らの労役の叫びは神に届いた。

2:24 神は彼らの嘆きを聞かれ、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。

2:25 神はイスラエル人をご覧になった。神はみこころを留められた。

モーセはパロの家に加えられ、王子としての教育を受けましたが、それでもヘブル人であるというアイデンティティーは持ち続けました。そして同胞愛は内に燃えていたのです。その思いがあったこそモーセはあの出エジプトのリーダーとなれたのでした。心の内の思いがまずは何よりも大切なのです。

しかしその方法は、自分の力に頼るものでした。この出来事はモーセが40歳くらいのときでしたが、力もありまた気力もみなぎっていたでしょう。この失敗は彼が人間的な力では何も成し遂げられないのだと学ぶためでした。私たちも同じようにそのことを学びましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



9日 金曜

出エジプト

3:1 モーセは、ミデヤンの祭司で彼のしゅうと、イテロの羊を飼っていた。彼はその群れを荒野の西側に追って行き、神の山ホレブにやって来た。

3:2 すると主の使いが彼に、現われた。柴の中の火の炎の中であった。よく見ると、火で燃えていたのに柴は焼け尽きなかった。

3:3 モーセは言った。「なぜ柴が燃えていないのか、あちらへ行ってこの大いなる光景を見ることにしよう。」

3:4 主は彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、「モーセ、モーセ。」と仰せられた。彼は「はい。ここにおります。」と答えた。

3:5 神は仰せられた。「ここに近づいてはいけない。あなたの足のくつを脱げ。あなたの立っている場所は、聖なる地である。」

3:6 また仰せられた。「わたしは、あなたの父の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である。」モーセは神を仰ぎ見ることを恐れて、顔を隠した。

3:7 主は仰せられた。「わたしは、エジプトにいるわたしの民の悩みを確かに見、追い使う者の前の彼らの叫びを聞いた。わたしは彼らの痛みを知っている。

3:8 わたしが下って来たのは、彼らをエジプトの手から救い出し、その地から、広い良い地、乳と蜜の流れる地、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ベリジ人、ヒビ人、エブス人のいる所に、彼らを上らせるためだ。

3:9 見よ。今こそ、イスラエル人の叫びはわたしに届いた。わたしはまた、エジプトが彼らをしいたげているそのしいたげを見た。



3:10 今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。」

3:11 モーセは神に申し上げた。「私はいたい何者なのでしょう。パロのもとに行つてイスラエル人をエジプトから連れ出さなければならぬとは。」

3:12 神は仰せられた。「わたしはあなたとともにいる。これがあなたのためのしるしである。わたしがあなたを遣わすのだ。あなたが民をエジプトから導き出すとき、あなたがたは、この山で、神に仕えなければならない。」

モーセがいかにして主に用いられたのかが、ここに明らかにされています。それは出エジプトも、またカナンへの占領も、主なる神様が主導なさったということが明らかにされるためです。モーセはただ主に従ったに過ぎないのです。

ここで「くつを脱ぐ」というのは、奴隷の身なりを表します。モーセは主の奴隷のように、ただ忠実に従ったのです。この後のモーセの忠実さの原点はここにあるのです。私たちがくつを脱ぎましょう。主の前に自分は何か立派であるかのような振る舞いはやめましょう。

そのようなモーセでしたから、主は大いなる使命お与えになりました。私たちが主に用いられたと思うなら、または立派は使命を果たしたいと思うなら、喜んで主の奴隷になることです。それほどに主を信頼することです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:13 モーセは神に申し上げた。「今、私はイスラエル人のところに行きます。私が彼らに『あなたがたの父祖の神が、私をあなたがたのもとに遣わされました。』と言えば、彼らは、『その名は何ですか。』と私に聞くでしょう。私は、何と答えたらよいのでしょうか。」

3:14 神はモーセに仰せられた。「わたしは、『わたしはある。』という者である。」また仰せられた。「あなたはイスラエル人にこう告げなければならない。『わたしはあるという方が、私をあなたがたのところへ遣わされた。』と。」

3:15 神はさらにモーセに仰せられた。「イスラエル人に言え。あなたがたの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主が、私をあなたがたのところへ遣わされた、と言え。これが永遠にわたしの名、これが代々にわたってわたしの呼び名である。」

3:16 行って、イスラエルの長老たちを集めて、彼らに言え。あなたがたの父祖の神、アブラハム、イサク、ヤコブの神、主が、私に現われて仰せられた。『わたしはあなたがたのこと、またエジプトであなたがたがどういううちを受けているかを確かに心に留めた。』

3:17 それで、わたしはあなたがたをエジプトでの悩みから救い出し、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ペリジ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地へ上らせると言ったのである。』

3:18 彼らはあなたの声に聞き従おう。あなたはイスラエルの長老たちといっしょにエジプトの王のところに行き、彼に『ヘブル人の神、

主が私たちとお会いになりました。どうか今、私たちに荒野へ三日の道のりの旅をさせ、私たちの神、主にいけにえをささげさせてください。』と言え。

3:19 しかし、エジプトの王は強いられなければ、あなたがたを行かせないのを、わたしはよく知っている。

3:20 わたしはこの手を伸ばし、エジプトのただ中を行なうあらゆる不思議で、エジプトを打とう。こうしたあとで、彼はあなたがたを去らせよう。

3:21 わたしは、エジプトがこの民に好意を持つようにする。あなたがたは出て行くとき、何も持たずに出て行ってはならない。

3:22 女はみな、隣の女、自分の家に宿っている女に銀の飾り、金の飾り、それに着物を求め、あなたがたはそれを自分の息子や娘の身に着けなければならない。あなたがたは、エジプトからはぎ取らなければならない。』

人間が自己紹介するときは、親に付けられた名前、所属の学校や仕事先、出身地や住まいなどを言います。それらによってその人の存在が明らかになるからです。しかし神様はそれらのことに左右されたり、位置づけられたりしないお方です。神以外のもので神を定義することは不可能なのです。なぜなら永遠無限でないもので永遠無限のものを表現できないからです。

ですから神様は『わたしはある』という表現をご自身に使われたのです。一方神様はご自身で有限なる人間に関わってくださるかたでもあります。そこにただ人間の神認識が生まれるのです。ですから「アブラハム、イサク、ヤコブの神」と言われました。

このような偉大な神様が私たち自身と交わってくださるということは奇跡の中の奇跡です。その

主がエジプトから民を救い出すというように、同じく私たちにも救いと守りの手を伸べてくださいます。信頼しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:1 モーセは答えて申し上げた。「ですが、彼らは私を信ぜず、また私の声に耳を傾けないでしょう。『主はあなたに現われなかった。』と言うでしょうから。」
4:2 主は彼に仰せられた。「あなたの手にあるそれは何か。」彼は答えた。「杖です。」
4:3 すると仰せられた。「それを地に投げよ。」彼がそれを地に投げると、杖は蛇になった。モーセはそれから身を引いた。
4:4 主はまた、モーセに仰せられた。「手を伸ばして、その尾をつかめ。」彼が手を伸ばしてそれを握ったとき、それは手の中で杖になった。
4:5 「これは、彼らの父祖の神、アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、主があなたに現われたことを、彼らが信じるためである。」
4:6 主はなおまた、彼に仰せられた。「手をふところに入れよ。」彼は手をふところに入れた。そして、出した。なんと、彼の手は、らいに冒されて雪のようであった。
4:7 また、主は仰せられた。「あなたの手をもう一度ふところに入れよ。」そこで彼はもう一度手をふところに入れた。そして、ふところから出した。なんと、それは再び彼の肉のようになっていた。
4:8 「たとい彼らがあなたを信ぜず、また初めのしるしの声に聞き従わなくても、後のしるしの声は信じるであろう。
4:9 もしも彼らがこの二つのしるしをも信ぜず、あなたの声にも聞き従わないなら、ナイルから水を汲んで、それをかわいた土に注がなければならない。あなたがナイルから汲ん

だその水は、かわいた土の上で血となる。」

モーセは自分のことばに自信がなく、民が彼を信じないだろうと思いました。誰もが同じように自分に自信が持てないものです。神の使命を帯びたモーセもまた同じ弱い人だったのです。
神様はモーセを通して奇跡を行うと約束なさり、またそのことを実際に体験させて確信を与えました。私たちも自信がないときには、やせがまんせずに神様に告白しましょう。そして神様のみわざが与えられることの約束を得ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

